

Forest walk

参道を進むに従い、ブナなど大きな木々に出会う。斜面で
もしっかり根を張り、何十年にもわたって自らの役割を果
たす木々に感慨深いものがある。



水を育む神秘の森で、 五感を磨く

ブナの森ウォーク

エコツーリズムとは International Ecotourism Conference in Tottori

地域ぐるみで自然や歴史、文化といった地元の魅力を発掘し、持続的な観光資源として活用・保全することを目指す新しい観光のあり方。地域振興にもつながると期待されている。具体的には、▽地域ぐるみで取り組むことで互いの絆が深まる▽住民が地元の良さを再認識し、地域の活力が向上する▽観光業の振興による地域経済が活性化するなどが、エコツーリズム発展での効果と考えられている。

木漏れ日の下、大山の中腹へと向かうゆるやかな石畳を登る。澄んだ空気が心地良い。
「大山は、古くから山自体が御神体であり、崇拝されていたんですよ」と、ガイドの田中大祐さん。自然体験施設「森の国」に勤務する大山ガイドの若きホープだ。



葉っぱ1枚についても丁寧に解説してくれるガイドの話は、初めて聞くことも多く興味深い

今回挑んだのは大神山神社奥宮の参道を歩く約3時間のコース。運動不足の身に耐えられるかと心配したが、意外と景色を楽しむ余裕もある。聞けば、参加者の体力や興味に合わせてペースや話題を変えているとか。そのため植物、昆虫、歴史…と、田中さんの知識は実に幅広い。
「日本一長い石畳の道」という約700段の参道沿いには、お地蔵様がそこかしこに。「道案内をしてくれているんですよ。そばの石に『七丁』とか奥院までの距離が書いてあるでしょう？」と田中さん。森の風景に溶け込む素朴なお地蔵様たち。その穏やかな笑顔に励まされて参道を進む。

「通とタンデム」で満足度up↑↑

わくわく「エコツーリズム」体感記

名峰大山に雄大な砂丘、透き通った日本海…訪れるだけで楽しめる鳥取の大自然。だけど、その魅力を知り尽くす仲間と一緒に興奮度は桁違い。今回紹介する「エコツーリズム」は、地元のガイドと共にさまざまな体験をする旅のスタイル。自慢の風景、知られざるエピソードなど、地元を愛する“通”ならではの情報も盛りだくさん。心と体を動かす旅に、さあ出発！

文/前川 文 写真/山崎 登



わくわく「エコツーリズム」体感記

今年10月19～21日の3日間、西部を中心とする鳥取県内各所を舞台に開催される、国内最大規模のエコツーリズムの大会。「森・里・海、水の連環と人々の営み」をテーマに、エコツーリズムの先駆者らによる基調講演やトークセッション、参加者がさまざまなツアーコースを体験する「エクスカージョン」(*)などが行われる。

◎ エコツーリズム国際大会2013 in 鳥取 実行委員会事務局 (鳥取県西部総合事務所内)
☎ 0859-31-9373
🌐 <http://daisenvonder.com/>
◎ 大山・中海エコツーリズム協議会
☎ 0859-35-6785

*エクスカージョン＝訪れた場所で案内人の解説に耳を傾けながら、参加者も意見を交わす体験型の観光プログラム

Internatinal Ecotourism Conference in Tottori

エコツーリズム国際大会2013 in 鳥取大会



チーフコーディネーター 石村 隆男さん

「来て楽しんで終わり」という従来の形から一歩踏み込んで、なぜここは美しいのか、なぜ食べものがおいしいのかなど、その土地の魅力、そして歴史や

文化を掘り下げて知る旅のカタチが「エコツーリズム」。ブームが過ぎたら忘れ去られるようなものではなく、観光客からも地域住民からも長く大切にされる観光地づくりを目指している。

深く知ることは土地への愛着や敬意を育てる。例えば信仰によって守られてきた大山のブナ林は、清らかな水と魚介を育む栄養をつくり、農業はもちろん、漁業や食生活を支えてくれている。そのように信仰や自然、水や食など多くの事柄が関わり合い、自分にもつながっていると知ると興味深まり、地域への愛が生まれてくる。

エコツーリズムにはガイドの育成や、楽しく興味深いプログラム作り、観光資源の保全などが必要。それには住む土地を知り、愛し、大切にしようという人々の思いが不可欠だ。しかし地元の良さは気付きにくい。今秋の国際大会をきっかけに、積極的に地元の人に関わるようになればと思っている。

観光の振興は地域の活性化にもつながる。例えば、「大山」を軸にさまざまな産業が連携して発展し、人々が元気になり、大山をはじめとする地域の自然も大切にされる—そのような良い連環が生まれてくれれば嬉しい。

活性化につながる地元への愛着



国の特別天然記念物で鳥取県の県木でもあるダイセンキヤラボク。神社の裏手に植えられている



毒草のマムシグサ。花がマムシの頭、茎のまわりが胴体に似ていることからついた名前という。栄養状態により雄、雌が左右される雌雄異株と聞いてビックリ!



楽しいエピソードを交えて解説し、参加者を飽きさせない田中さん

参道に戻り、終点の奥宮へ。国内最大規模という権現造りの社殿には精巧な彫刻が施され、「聖域」にふさわしい風格がある。一息つくくと、日々の悩みや疲れが消えていることに気付いた。こんなに満ち足りた気分は久しぶり。木や葉に触れることで感覚が磨かれ、夢中になって話を聞いたからだろうか。風通しが良くなった心と体で、次の行程へと向かった。

◎ 森の国
📍 西伯郡大山町赤松634
☎ 0859-53-8036
🕒 9時～17時30分
🚫 年中無休

【国際大会のエクスカージョン(例)】他にも多数のコースあり

◆ブナの森ウオーク& 大山寺の歴史コース

午前中は、大山の絶景を堪能できる「大山パークウェイ」をドライブし、標高約900mの「鏡ヶ成湿原」をショートハイク。午後からは大山寺周辺のブナの森をガイドとともに歩き、国指定重要文化財の阿弥陀堂、国内最大規模の権現造りの社殿をもつ大神山神社奥宮などを訪ねる。大山の雄大な自然と、奥深い歴史文化の両方を満喫できるコース。

◆大山ダウンヒル サイクリングコース

午前中は「ブナの森ウオーク&大山寺の歴史コース」と同じ。午後からは、大山スキー場から日本海までの25kmを自転車で行く「大山ダウンヒルサイクリング」に挑戦する。ダウンヒルサイクリングでは、ブナの森の溪流や牧場、ヨーグルト工場なども通る。大山の絶景と恵みに触れ、サイクリングの爽快さを味わえるコース。

◆世界ジオパークと ナチュラルガーデンコース

山陰海岸国立公園であり、「世界ジオパーク」エリア内でもある鳥取砂丘と、日本で唯一砂を素材にした彫刻作品を展示する「砂の美術館」を訪ねた後、水辺の風景が美しい湖山池公園へ。第30回全国都市緑化とっとりフェア「水と緑のオアシスとっとり2013」(9月21日～11月10日)を楽しむ。雄大な砂の造形美と、草花の美しさに心癒やされるコース。

◆たたら製鉄のふるさと・ 奥日野を訪ねるコース

奥日野、奥出雲を中心とする中国山地は日本一の質と生産を誇った、たたら製鉄の聖地。かつては、日本の鉄生産の9割以上を占め、日本の産業を支えていた時代もあった。現在もたたら文化が息づく地域でもあり、日本のふるさとを思わせる懐かしい里山の風景も広がる。映画「もののけ姫」のモチーフにもなった歴史や文化を体感できるコース。



参道沿いのそこかしこに、歩く人を見守るように地蔵が設置されている。写真は江戸時代中期の吉持地蔵

秋も深まったこの日、石畳は色とりどりの落ち葉で染められていた。田中さんが一枚の葉を拾って見せてくれた。「これがブナの葉。多くの落ち葉がギザギザなのに比べ丸っこく、葉脈の部分がへこんでいるんです」。この特徴を教えると、参加者は子どものようにブナの葉探しに夢中になるとか。「そして「じゃあこれは何の葉?何の実?」と興味が広がる。自然の中



カエデの種子。羽のような形で、飛ばしてみると、ヘリコプターのようにクルクル回転する

石畳を上りきるとドーンと目の前に現れる大神山神社奥宮。風格がある見事な社殿に圧倒される



だと大人も人間本来が持っている好奇心が蘇るようですね」。ブナには「山を豊かにする」という性質もある。その葉に落ちた雨粒は葉脈に沿って流れ、幹を伝い、大量の落ち葉が重なる根元に集まる。湿った落ち葉は栄養豊富な腐葉土になり、また腐葉土を通った雨水はミネラル分たっぷりの地下水となつて多くの命を育む。「全国有数の広さのブナ天然林をもつ大山は、豊かな水と栄養の供給源でもあるんです」。大山を敬った先人たちは、そのことを知っていたのかも知れない。そっと幹に触れると静かに水が流れていた。この水がたくさんの命を潤していくのだと思うと感慨深い。

参道を外れて脇道を行くと「賽の河原」と呼ばれる石の河原が現れた。あの世にちなんだ名に似合わず、紅葉の名所でもある美しい河原だ。近くには大山寺があり、僧兵の修行場だったという。最盛期は3千人もの僧兵が荒行に励んでいたとか。その光景を想像すると身が引き締まる。